

など、資源の有効活用に努めていきます。

廃食用油をバイオディーゼル燃料の原料として利用するためには、回収時にエンジンオイル等の不純物が混入していないことが重要であるため、家庭系の再利用に当たっては徹底した回収方法を確立する必要があります。

バイオディーゼル燃料を利用すると、二酸化炭素の排出量にカウントされないなど地球温暖化対策実行計画の推進においても有効な手段となることから、公用車での利用について費用対効果等の検討を行い、公共施設での廃食用油の有効利用について優先的に研究していきたいと考えています。

土地開発公社

問 土地開発公社所有地の処分は

答 取得後5年以上経過した土地は6件で、面積約4万4,000平方メートル、簿価額は約11億3,000万円になっています。その処分については、現在経営健全化計画に基づき、市

による公共用地の再取得や借り入れに対する利子補てんなど計画的な支援措置により順次処理を行っています。

平成19年度の処分状況については、経営健全化計画に基づき大洲市が買い取り、または負担金として支出し、処分できた保有地は阿蔵・高山道路用地ほか3件で、合計約5億6,500万円となっています。また、一般分譲宅地については、東若宮団地で8区画、約9,700万円が分譲できたところであり、総額で約6億6,200万円です。

今後、分譲宅地については、年次計画を立て、引き



東若宮地区の分譲宅地

続きホームページや広報、新聞、折り込み等による販売促進を図るとともに、分譲宅地等のあっせんについて宅地建物取引業協会とも連携しながら、東京、大阪など都市圏からのUターンなどの移住を推進するため、県人会等の組織を活用してパンフレットを配布するなど、早期の完売に努めたいと考えています。

小学校統廃合

問 今後の方針について

答 3月19日に最終の検討委員会を開催され、報告書を提出していただきましたが、この報告書は、あくまでも検討委員会の結論です。4月に教育委員会を開催し、教育委員会としての計画書を策定します。その後、計画書を議会に報告し、7月ごろからそれぞれの地域で説明会を開催し、御理解をいただけるよう努力するとともに、御意見等には真摯に耳を傾けていきたいと考えています。



小学校の統廃合が検討される

図書館整備

問 新図書館のオープン時期、事業費、利用計画について

答 建設工事は順調に進んでおり、総事業費については当初計画で13億円を予定していましたが、事業内容の見直しを行うとともに、入札減などにより、現時点では11億9,000万円程度にまで圧縮したところ

です。建物については本年10月末には完成しますので、11月と12月の2カ月間で引越しと開館準備を進め、来

年1月11日の合併記念日にオープンする計画で進めています。このため、現在の図書館は11月から休館する予定です。

新図書館内には地域資料の保存・展示コーナー、子ども向けの図書コーナー、CDやDVDの視聴や貸し出しのための視聴覚コーナーを設け、また、オストメイト対応の多目的トイレや幼児用トイレ、研修会や展示用に100人程度が利用できる多目的なコミュニケーションスペースも設置し、障害者や高齢者、子どもにも優しく、誰でも利用できる図書館となるよう努めていきたいと考えています。

